

みの～れは 面白い人の見本市

人と出会って 世界が広がる

2018年10月に開催された「第1回全国ヨーグルトサミット」。当時10歳だった荷見さんは、家族でミュージカルを観に来たことをきっかけにみの～れと出会いました。中学・高校で演劇部に所属し、現在はみの～れで照明操作やイベント企画、フロント運営など多くの活動に参加している、小美玉市柴高地区在住の荷見さんにお話を伺いました。



チームBIRDの森／みの～れ公演スタッフ

はす み けん せい
荷見建成さん

みの～れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ
No.228

当しました。「演劇や演出を学ぶ上でも、Myuと関わったことは大きかったです」と振り返ります。

中学3年生では仲間を誘い、『みゅ〜じゅ〜☆すた〜と』の企画にも参加しまし

た。キャスティングや演出など、自分たちで考えて形にする経験を重ね、「舞台上に立つだけでなく、裏側から創るのも面白い」と感じるようになってきました。みの～れパートナーズのボランティアやチームBIRDの森にも加わり、イベント運営など活動の幅を広げています。

Myuの脚本講座で学んだことも演劇活動の意欲向上につながり、演劇部のある高校へ進学。高校演劇祭で出会った仲間に声をかけ、「劇団ビギニング・ハングリー」を立ち上げました。

今年は8人の仲間と四季の里演劇祭にも出演。準備を本格化したのは本番の一

週間前。「一週間前では間に合わないことを学びました」と苦笑しながらも、仲間と作品を創り上げ、家族にも観てもらえたことが嬉しかったと言います。

観る人から演じる人へ。そして、支える人、企画する人、仲間を集めて舞台を創る人へ。みの～れとの出会いから、荷見さんの世界は少しずつ広がってきました。「大進学後も、みの～れの活動に参加し続けたい」と話す荷見さん。これからも、この場所ですばらしい企画をつくっていききたいそうです。

「みの～れは、面白い人の見本市みたいなどころ。いろんな大人の人も出会えて、話を聴く機会も増えました。みの～れと出会って良かった」。これから多くの人が刺激を受けながら、自分らしい世界を広げていってほしいと思います。

(藤田佐知子)

ところが舞台に立つ楽しさを知り、演じる側にも夢中になっていきました。その頃から、みの～れとの関わりも深まります。舞台技術担当の阿部さんに声をかけられ、音響を経験。みの～れ20歳記念オリジナルミュージカル『黄色い袋と魔法のトンネル』では、ピンスポットを担